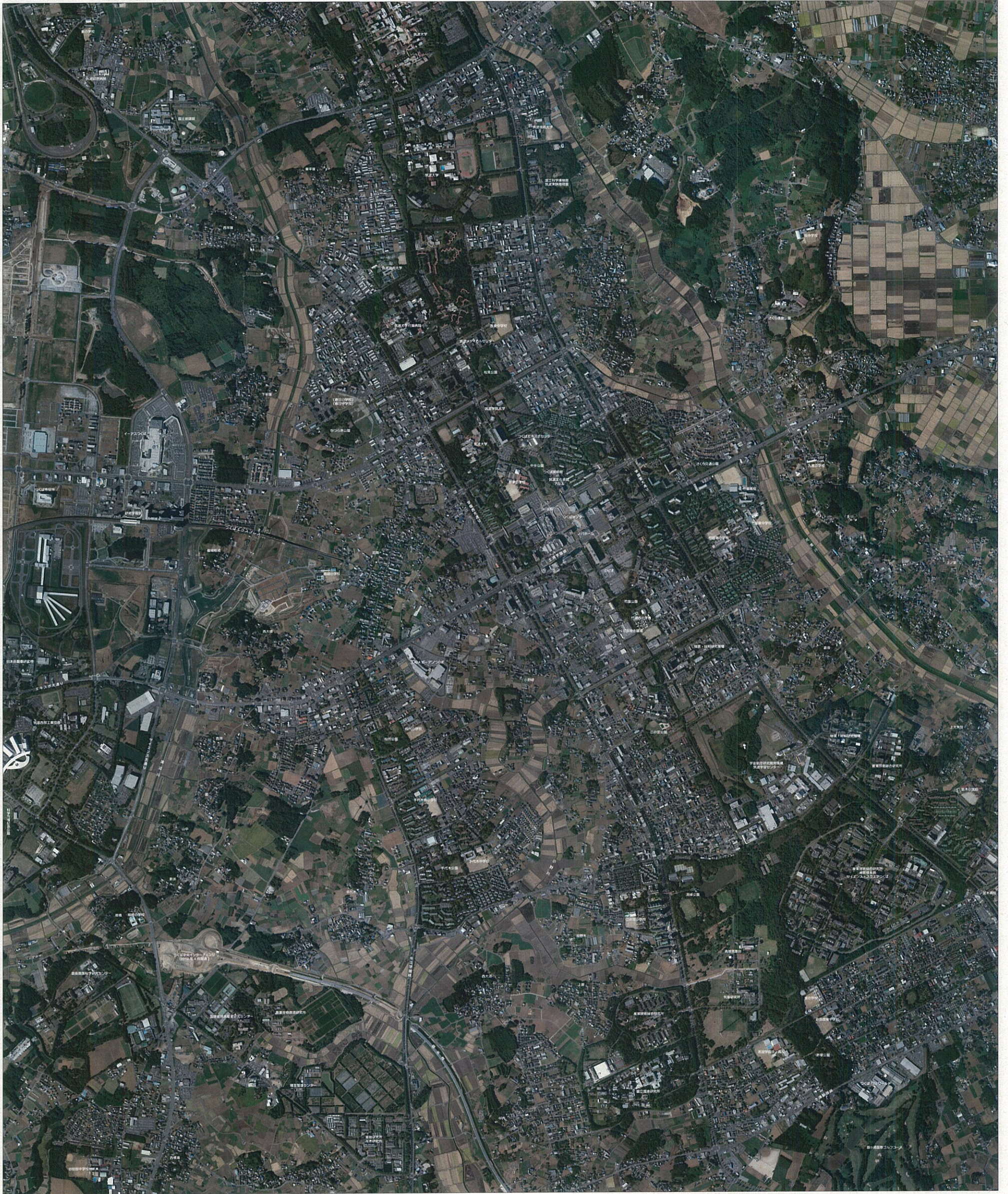


研究学園都市中心部

平成 21 年 (2009 年) 9 月 25 日 撮影



いばきまのまちをのぞいて

1/2500

↑上について自由にご覧ください

この空中写真は「正射写真（オルソ画像）」といいます。航空機で撮影した空中写真は、写真の中心から離れた位置や標高が高い位置にはひずみ（形や大きさのゆがみ）が生じていますので、そのままでは地図と重なりません。「オルソ画像」は、空中写真のこのひずみを補正し、写真に写り込んでいる情報（物体）の位置や大きさ、形を正しく変換した画像です。したがって、この空中写真は、地図とぴったり重ねることができ、画像上から正確な位置などを取得することができます。



「つくば ときの記憶」

地図と写真でたどる学園都市の今むかし

の開催にあたって

昭和 30 年代、日本は戦後復興をはたし、高度経済成長期に入っていました。とりわけ東京は、経済や行政、教育や文化、情報や技術開発など社会の主要な機能が集中し、急激な人口増加をまねきました。そのため住宅難や水不足、通勤地獄や交通渋滞など、人々の生活や仕事にさまざまな支障をきたしていました。

そこで政府は、過密化解消等を目的に首都機能の一部を集団移転することを決め、昭和 38 年(1963 年) 9 月 10 日、筑波山麓に研究学園都市を建設し、国の試験研究機関や大学を移転することを閣議了解しました。今年はそれから 50 年となります。

昭和 48 年に筑波大学が開学し、さらに各研究機関等の移転が始まり、国土地理院も昭和 54 年に筑波研究学園都市へ移転しました。

その後、常磐道柏 IC - 谷田部 IC の開通(昭和 56 年)、国際科学技術博覧会(科学万博)の開催(昭和 60 年)、つくば市の誕生(昭和 62 年)、つくばエクスプレスの開業(平成 17 年)などとともに、さまざまな企業や大規模商業店舗等の進出があり、研究学園都市は大きく変貌しました。

企画展では、筑波研究学園都市の歩み等に関する地図・空中写真などの測量成果や建設中の写真など貴重な資料を紹介します。企画展を通じて学園都市の変遷・発展を身近に感じていただくとともに、地図や測量へさらに親しみを深めていただければ幸いです。



本企画展の展示にあたっては、国土地理院が保有する地図・空中写真等のほか、下記の資料を参考に記述しました。

【筑波研究学園都市】	発行：国土交通省都市・地域整備局	2008
【新しいつくばの歴史〔中学校社会科用副読本〕】		
	発行：(財)つくば都市交通センター	1997
【茨城県史〔近現代編〕】	発行：茨城県	1984
【茨城県史〔市町村編Ⅱ〕】	発行：茨城県	1975
【茨城県史〔市町村編Ⅲ〕】	発行：茨城県	1981
【谷田部の歴史】	発行：谷田部町教育委員会	1975
【豊里の歴史】	発行：豊里町	1985
【大穂町史】	発行：つくば市大穂地区教育事務所	1989
【桜村史〔上巻〕】	発行：桜村教育委員会	1982
【桜村史〔下巻〕】	発行：桜村教育委員会	1983

《その他》

総務省、国土交通省、茨城県、つくば市、首都圏新都市鉄道株式会社、

東日本高速道路株式会社

ほか 関係機関資料